

手嶋龍一

(作家・外交ジャーナリスト)

さん

NHKワシントン支局長時代の2001年9月11日に起こったアメリカ同時多発テロ事件で、11日間、昼夜の中継放送で注目の人となった手嶋龍一さん。NHKから独立後も、独自のインテリジェンスを求めて世界各地を探訪し、作家・外交ジャーナリストとして活躍されています。

いまの日本は自ら嵐に突入する
覚悟をもつべきです。

Healthy Life

ヘルシーライフ

No. 98

January 2010

**三流スパイ小説を
読んでいて、
ふと閃いたんです。**

……なぜNHK記者になろう
と思ったのですか。

手嶋 正直に言うと、誠に不純な動機なんです。ジャーナリストになる志も、適性があるかも、定かでないまま、NHKに入ったんです。お話するのも憚られるのですが、どうしても言うなら、でも困ったなあ。

北海道で炭鉱を経営していた父が亡くなり、大学生だった僕は斜陽化していく炭鉱の後始末をしていました。当然、学校にはほとんど行きませんでした。従業員を抱えていましたので、会社を畳むにはかなりの資金が必要。オイルショックの到来を無言のうちに予見していたので

しょう。アラビヤ石油株が突然暴騰します。この大相場の前、紙が同然だった炭鉱株が値上がりし、我が家はこれを処分して、アラ石に乗り換えていたんです。その結果、天井近くでアラ石を売り抜け、大金が転がり込んできました。ですから、卒業しても、就職の必要はない。ところが、当時はフリーターという言葉もなく、周囲の目もあるもので、とりあえず形ばかり就職してこの世を忍ぼうと思ったんです。そんな時に読んだのが、BBC(英国放送協会)に勤めるチェコの亡命詩人が、実は秘密情報部員という三流スパイ小説。それで、ふと閃いたんです。日本にもNHK(日本放送協会)があると。誠に不真面目で、若い方々には何の参考にもならない話で済みません。NHKにはディレクターやアナウ

ンサーなど様々な職種がありますが、何しろすぐに辞めようと思っただけで、第一志望に記者と書いたから、さきまに人生とは奇妙なものでこんなにお世話になるとは想定していませんでした。

……NHKでのお仕事はどうでしたか。

手嶋 大きな組織ですから当然上司がいるわけです。当時は実に感動的なほど安月給でした。にもかかわらず、あれこれ命令されるわけです。これには困った能力に欠けていたからです。そこで考えました。当時は給料を現金入りの封筒で上司から受け取るのですが、「いやいや、結構です」と辞退し続けたのです。3ヶ月後には、困り果てた上司に「自分の責任問題になるから受

け取ってくれ、君の事情は分かっています」と言われました。別段、上司を困らせようと思っただけで、ありませんから、受け取ることにしました。これ以後、あれこれ命令されることもなく、自由にやらせてもらいました。アラ石の相場のことなど一切漏らしていませんが、何となく事情を察してくれたのでしよう。

最初の赴任地は郷里の北海道に赴任させてもらいました。まだ自らの会社の整理が残っていたからです。次に希望して横濱に異動しました。あそこはひとり勤務の配置だったからです。誰にも監視されずに済む。その上、米海軍の基地とどぶ板通りがあるエキサイティングな取材地でした。その後、NHK政治部の記者となり、外務省、総理官邸、自民党を担当しました。

One Point Refresh

ワンポイントリフレッシュ [足裏マッサージとストレッチ]

足裏“反射区”への刺激と“足底筋”を鍛えよう

足裏には身体の各器官や内臓に連動した“反射区”と言われる部分がたくさんあります。“反射区”を刺激することで血液の循環を良くし、各器官や内臓の機能の改善に効果があるとされています。また足裏には42の筋肉からなる“足底筋”があります。私たちの日常生活の中で、歩いたり、ジャンプしたりといった動きに合わせて、筋肉が収縮することで身体にかかる膨大な重さを支えている重要な働きをしています。“足底筋”の凝りは身体を支える機能の低下や下半身の血流の滞りを招き、腰、膝、関節の痛み、むくみ、冷えの原因にもなり、全身の疲労に繋がります。

現代人は靴を履き、硬い地面を歩くことが日常化し、足を酷使しています。さらに裸足で過ごすことが少なくなったことで足裏への刺激が減り、柔軟性が失われがちです。日頃から足裏の健康を意識することを心がけましょう。

日頃から意識的にマッサージ・ストレッチを行ないましょう。

<“反射区”への刺激…足裏マッサージ>

“反射区”は、身体の各器官や内臓に繋がっている末梢神経が集中する「面」として全身に存在し、足裏にも多くあります。ツボ(経穴)は“反射区”の「面」に点在していて、各器官や内臓の不調部分を点で捉え、集中的に作用するとされています。しかし一般的にそのツボを的確に捉えるのは難しいものです。“反射区”全体をまんべんなくマッサージすることでも、関連部位本体が刺激を受けて血液循環がよくなり、機能改善が期待できます。気になる箇所の“反射区”を集中的にマッサージしたり、リラックスして足裏全体をマッサージすることを日課とし、疲労回復に役立てましょう。

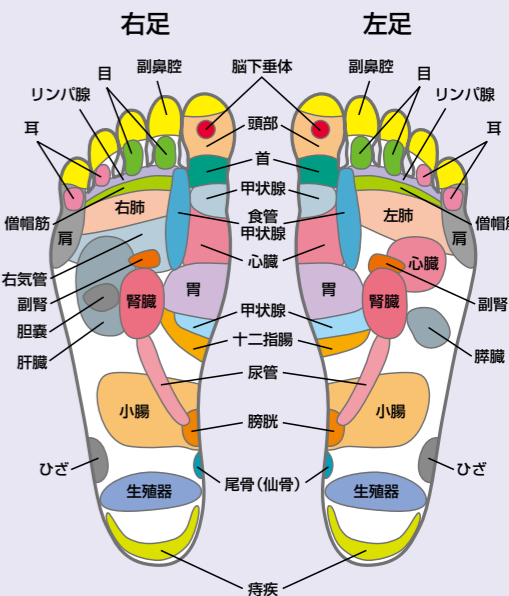
図…足裏反射区図

<足底筋ストレッチ①…足指ジャンケン>

足の指で「グー・チョキ・パー」をします。これを1セットとして10回ほど連続して行ってください。できるだけ指の動作を大きく行うようにしましょう。

<足底筋ストレッチ②…足のイモムシ運動>

左右の足裏全面を地面に付けます。5本の足の指を縮めたり伸ばしたりを繰り返し、イモムシのように足を前進させます。足裏の凝りが解消され、気持ちよく感じるまで数回行ってください。



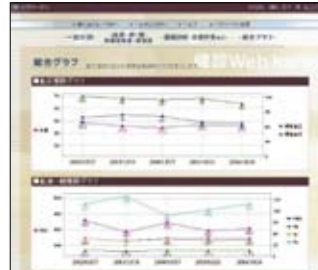
図…足裏反射区図

ヘルチェック健診Webカルテ

「健診Webカルテ」は、インターネットで
ご自身の健診結果を見ることができるサービスです。

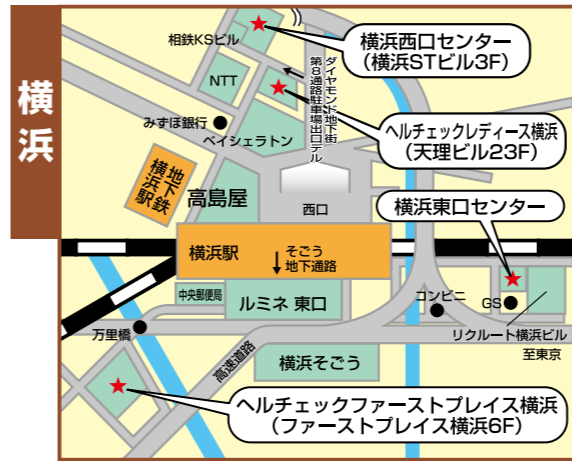
<http://www.health-check.jp> にアクセス

- ヘルチェックホームページにアクセスしてください。
善仁会ホームページからでもご覧いただけます。
 - 個人用IDとパスワードでログイン
ご受診日に、パスワードをお渡しします。個人用IDは、後日健診結果報告書に同封してお送りします。
 - 過去から現在までの健診データ表示
検査結果の今までの推移、各検査項目の説明、基準値、診療所見などがご覧いただけます。
- ※本サービスの提供に際しましてはSSLによる暗号化とベリサイン社によるサーバー認証により、情報セキュリティ対策をしています。

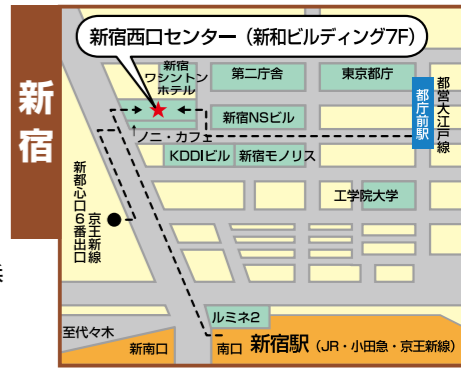


データ表示例

【総合健診センター ヘルチェック】



- 総合健診センターヘルチェック 横浜東口センター 〒221-0056 横浜市神奈川区金港町6-20
- 総合健診センターヘルチェック 横浜西口センター 〒220-0004 横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル3F
- 総合健診センターヘルチェック ヘルチェックファーストブレイス横浜 〒220-0011 横浜市西区高島2-7-1 ファーストブレイス横浜6F
- 総合健診センター ヘルチェックレディース横浜 〒220-0004 横浜市西区北幸1-4-1 天理ビル23F



- 総合健診センターヘルチェック 新宿西口センター 〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-4 新和ビルディング7F



総合健診センターヘルチェック
<http://www.health-check.jp/>
■設立 1984年
■年間受診者数 177,576人(2008年)

お問い合わせ・ご予約(月～土曜日8:30～18:00)
■横浜予約(045)453-1150
■新宿予約(03)3345-7766
■FAX予約(045)441-8451(横浜・新宿共通)
【開診日】月曜～土曜日(祝日営業)

Healthy Life

No. 98

January 2010
●発行日/2010年1月1日

●発行所/総合健診センター ヘルチェック



ここでも自由にやらせてもらいましたが、やはり単独で取材活動するには、海外勤務のほうが都合がいい。とはいっても、別段、海外特派員を希望したわけではないのです。長くNHKにいるつもりがなかったため、どこに配置してくださいと希望したこともありませんでした。そもそも、わが家系では、実直な給与生活者は誰もいませんので、あのまま国内にいれば、比較的是やくNHKを辞めていたと思います。僕には組織になじめない血が流れているのでしょう。だから、自分はきつと周囲に迷惑をかけているに違いないという自覚はありました。ですから、NHKに比較的に長く居たのは、海外特派員を十数年も務めて、一匹オオカミでいられたおかげだと思います。

◆インテリジェンスは ライオンと潜水ダイヤモンドの原石

……ワシントン支局へ赴任された時の状況はどうでしたか。

手嶋 1987年に突然、政治部からワシントン支局に特派員として赴任しろという命令を受け取りました。急なことで何の準備もなく、現地にはひとりの知り合いもいませんでした。ですから、最初はまったく手も足も出なかった。そんな状態でワシントンに赴くのは、エベレスト山頂に無酸素で挑むようなものです。現地のメディアが流す情報を小手先で加工して済ませるならともかく、自分自身が納得できるような仕事は到底望めません。こんな状態では、早々に店じまいをせざるを得ないと覚悟していました。まあ、せっかくならワシントンに来たんだから、この際、せめてスミソニアン博物館群は観ておこうと考えていました。一種の帰国準備でした。

そんな僕に転機が訪れたのは、一本の電話がきっかけでした。国際政治の魔都、ワシントンの深部を貫通する「インテリジェンス」人脈から、或る日、連絡があったのです。ワシントンに赴任して半年くらい経った頃でしょうか。英国人紳士から「お前がRYUICHIか？」とオフィスの電話がかかってきたのです。その英国人こそ、僕を政治の地下水脈に誘ってくれたキー・パーソンでした。そこからは、もう重要な情報源が芋蔓式に連なっていました。ワシントンに赴任する1年前前の東京での出来事がすべて始まりです。駐日英国大使が日本政府との折衝でご苦労されていた時、親友の英国人が大使補佐官をして

◆日本は短く耳のウサギ

……日本にどうしてのインテリジェンスをどのように見ていらっしゃいますか。

手嶋 日本は戦後ながく、超大国アメリカの傘のもとに、ひっそりと身を寄せて暮らしてきた。経済重視・軽武装という路線が必ずしも間違っていたわけではない。だが、成功物語には、光と影を伴います。情報を収集し、読み解く面でも、アメリカに大きく依存してきた結果、長い耳のウサギになるべき経済重視・軽武装の国家が、短い耳のウサギに変容してしまっただけです。

世界の情勢は刻々と変化しており、このまま安泰ではいられないでしょう。日本は自ら風のなかに突入していく覚悟を持つべきです。軍事力に重きを置かない日本こそ、インテリジェンス大国にならなければいけません。

◆作品はインテリジェンスが ベースです。

……お仕事をされる上で大切にされていることは何でしょうか。

手嶋 2005年にNHKから独立し、いまはインディペンデントの立場になってみると、健康であることが全ての前提です。何しろ、たったひとりなのです。そのため「人間ドック」は欠かせません。いまも大きな次回作に取り組んでいます。その前には精密検査を受けて、向こう三年間命があるか確かめて、取りかかります。途中で万が一のことがあれば、出版社にも、読者にも迷惑をかけますから。

でもジャーナリストは身体を酷使する仕事です。NHKワシントン支局長時代にも、9・11テロに遭遇して、11日間連続で、現地取材をし、中継放送を担いました。お医者さんからは、後でぼっくり逝ってしまうことがあるから注意しなさいと言われています(笑)。

……現在は何に取り組んでいらっしゃいますか。

手嶋 インテリジェンスの収集と分析と申し上げておきます。諜報部員とジャーナリストは守備範囲が非常に近いのですが、諜報部員が国家に雇われて国家に忠誠を誓っているのに対して、ジャーナリストは読者や視聴者に雇われ、彼らにのみ忠誠を尽くしているのが、決定的な違いです。僕のようにフリーな立場のジャーナリス



手嶋龍一さん(作家・外交ジャーナリスト)

元 NHKワシントン支局長。
2005年にNHKから独立し、翌年発表したインテリジェンス小説『ウルトラ・ダラー』（新潮社）は33万部のベストセラー。
その後も情報小国ニッポンの覚醒を促した『インテリジェンス 武器なき戦争』（共著、幻冬舎新書）、世界の29都市に生起する情報戦を綴った『ライオンと蜘蛛の巣』（幻冬舎）、無名時代のバラク・オバマ米大統領との交流を描いた『葡萄酒か、さもなくば銃弾を』を相次ぎ発表。
90年代初めに執筆し、日米同盟の空洞化を精緻に予見したノンフィクション『たそがれ行く日米同盟—ニッポン FSXを撃て—』と『外交敗戦』の2作品（いずれも新潮文庫）は今も読み継がれるロングセラー。
これらの作品は米国側の注目も集め、90年代半ばにハーバード大学の国際問題研究所にフェローとして招聘されている。
9.11同時多発テロ事件では、NHKワシントン支局長として11日間連続の昼夜放送を担った。
2006年、慶応義塾大学教授就任。

※手嶋龍一オフィシャルサイト <http://www.ryuichiteshima.com>



ジャーナリストとして、
読者、視聴者に
忠実でありたい。

いたため、相談に乗って差し上げたことがあったのです。その英国大使は「この恩は必ず返す」と言っていました。僕はその恩を返すつもりで、約束を守りました。それが、その英国大使は、約束を律儀に守ってくれた。それも、ロンドンではなく、ワシントンで。この出来事がなければ、ワシントンには長く留まっていなかったに違いありません。

……インテリジェンスとはどういうものですか。

手嶋 日本語では、一般の情報に当たるインフォメーションも、精査された、決断に資する情報である。インテリジェンスも、一緒に「情報」と訳されます。だが、両者は似て非なるものです。

河原に転がる石ころを「インフォメーション」だとすれば、その膨大な石ころからダイヤモンドの原石を選び分けて、その意味を読み解いたものが「インテリジェンス」です。そのひとつひとつの石が大きな意味を持たなくても、複数を並べて磨き上げ、その意味を読み解けば、近未来に生起する事件を予告しているかも知れません。「インテリジェンス」とは、単に極秘情報にとどまらず、将来の重要な出来事を予見しているため、国家や企業の方角を定めるのに役立つ情報になり得るのです。

……どのように人脈を築かれていったのでしょうか。

手嶋 人脈とはいっても、結局は、人と人との関係です。その基礎となるのは、互いの信頼関係に行きつきます。そのためには「嘘をつかない、約束を守る」といった当たり前の原則に忠実であること以外にない。ただ、そうであるゆえに、確かな人脈を築くには、たくさんの人と挨拶を交わす程度の交際をしても意味がありません。僕らの仕事は、「知っていることは、知らないことと同じなのです」。人間関係は厳しい共同作業を経てこそ、揺るぎないものになります。その昔、北京で周恩来首相と長時間に及んで会見したことがあるのですが、「試験を経た友情のみが真の友情だ」と語っていたのが印象的でした。

だが、相手をいたずらに試験にさらすのはいけない。それゆえワシントンでは自宅が情報収集の主戦場でした。レストランで高官と会食をして、その1週間後に大きなニュースが出たとすると、情報源が特定されかねないから。しかし、自宅で相手の話のメモを取るわけにはいかない。記憶には限界がありますから、「ちよつと失礼」とトイレに駆け込んでトイレレットペーパーに書き込んだこともありました(笑)。こうした関係は、組織同士で成立するものじゃない。個人と個人の問題です。ひとりの姿勢や人間性が、すべてを決めると言ってもいいでしょう。



トにとっても、情報を提供する読者と視聴者は王様です。今後もジャーナリストとして、読者、視聴者にのみ忠実でありたいと思います。

僕のノンフィクション、フィクションいずれの作品も「インテリジェンス」がベースになっています。インテリジェンス小説『ウルトラ・ダラー』※の姉妹編は、2010年の2月頃に出版予定です。今回も物語を書くにあたって、世界の11都市を経めぐりました。戦前、戦中、戦後の決定的な事件の背後に潜んでいた「インテリジェンス」の深い海を航海して、ようやく祖国の母港に戻ってきたばかりです。主人公の英国秘密情報部員ステイブンも生きていましたので、日本のどこの街でその姿を見かけたか、声をかけてやってください。

※『ウルトラ・ダラー』……プロフィール内参照